

# いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



## 岩井やすのり

1970 年（昭和 45 年）生まれ 県立君津高卒  
専修大卒、早稲田大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 Fax : **0476-36-7802**

メール : [iwai.yasunori@outlook.jp](mailto:iwai.yasunori@outlook.jp)

〒270-1515 印旛郡栄町安食台 2-26-23（栄町役場前）



 **YouTube**  
でもっと詳しく



## 長門川整備事業 洪水時の水位上昇に不安の声

12 月に長門川の接続水路調査に先立って行われた住民説明会。参加した住民からは、護岸完成後の、洪水時の水位上昇を懸念する声が上がっています。

### ●護岸整備にあと10年、築堤完了にはあと20年

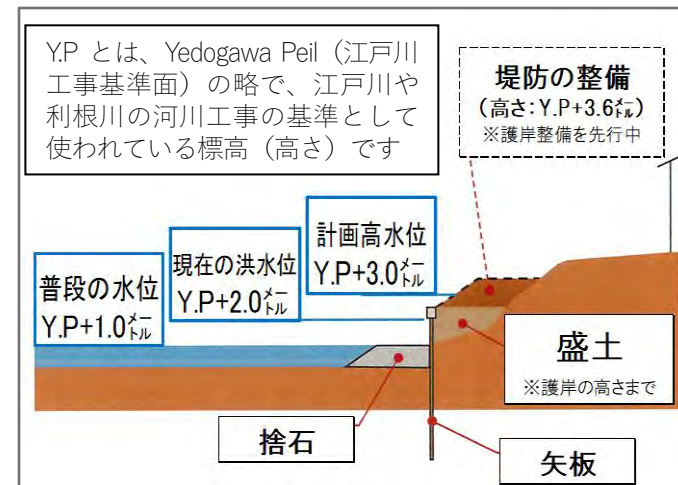
県下で甚大な被害をもたらした令和元年 10 月の大雨では、印旛沼流域の佐倉市で 10 月観測史上 1 位となる雨量を記録。印旛沼の水位が極めて高い状況が続き、沼に水を流すことができなかった鹿島川や高崎川流域で、広く冠水被害に見舞われる事態となっています。

こうした印旛沼流域の浸水被害を軽減するため、印旛沼水の放水河川として位置づけられる、長門川の排水能力増強を目指し、着工されているのが長門川の護岸整備事業です。鋼矢板を用いた護岸整備を行った上で、後に堤防を整備することとなっており、護岸整備の完了までにあと 10 年程度、築堤工事の完了には 20 年からの期間がかかるものとみられています。

### ●洪水時の限界値 現在より1㍍押し上げ

さて、今回の住民説明会で紛糾したのが、洪水時の水位上昇についてです。

長門川の水位は、通常時は江戸川工事基準の高さ（＝Y.P）より 1 ㍍高い「Y.P+1.0 ㍍」である一方、大雨洪水が発生した場合には酒直水門を調整し、通常時より 1 ㍍高い「Y.P+2.0 ㍍」を限界値として運用されています。これが、現在進められている長門川の護岸整備が完了し、長門川の排水能力が上がった際には、洪水時の限界値が 1 ㍍押し上げられ、「Y.P+3.0 ㍍」で運用されることとなるのです。



### ●栄町や印西市側を「犠牲」にはさせない

しかし、栄町布鎌地区などは周辺より低位にあり、現在でさえ大雨時の冠水が懸念されているところ。まして、長門川の水位が現状より 1 ㍍も高くなれば、地域全体で大雨洪水の被害をまともに受ける恐れがあります。

特に問題なのは、長門川の支川である将監川について整備の見通しがついていないこと。県管理の長門川は潤沢に予算がつけられ、矢板設置などの護岸整備が進められている一方、市町が管理する将監川の河岸は手つかずの状態で、水位上昇に耐えられないことは火を見るよりも明らかです。

そもそもは、佐倉市や八千代市での冠水被害がきっかけに始められた長門川整備事業。佐倉市など印旛沼南側の被害が避けられる一方で、栄町や印西市側がその犠牲になることは決して認められません。地元選出の県議として、この点は必ず守っていきたいと思います。

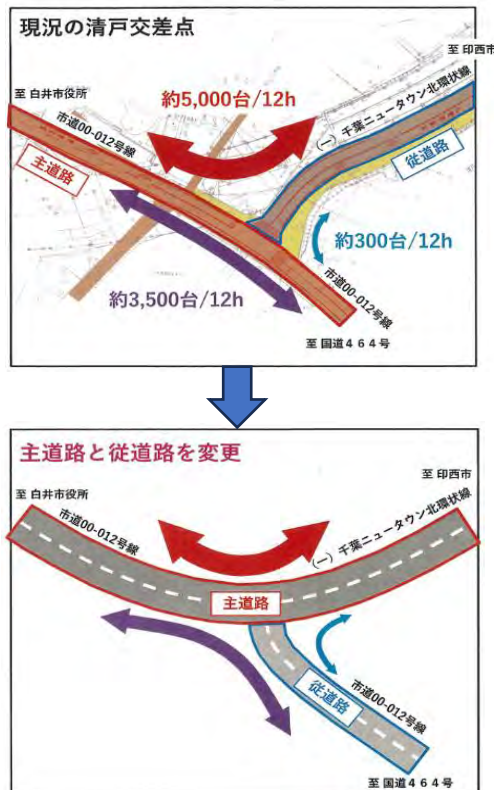
# NT北環状線 清戸交差点改良工事に住民反対の理由

印西市から白井市役所方向へと抜ける、県道千葉NT 北環状線の清戸交差点。12 月に開かれた交差点改良についての住民説明会では、地元住民から反対の声が上がっています。

## ●主道路と従道路の交通量逆転が渋滞の一因

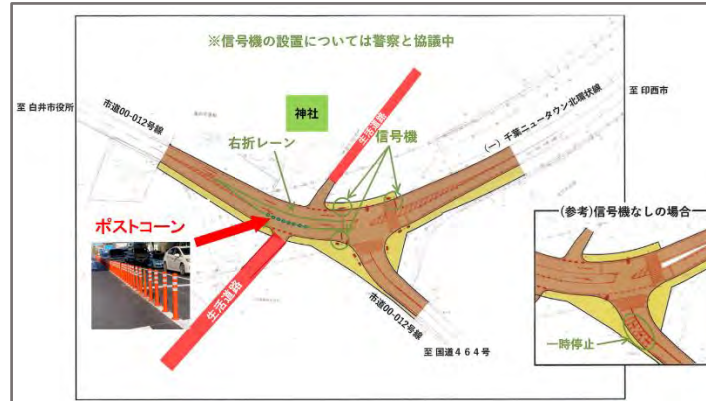
白井市の清戸交差点は、印西市方向から進み、突き当たったところにある、白井市道とのT字路交差点。市道側の交通量も多いため、白井市役所方向へと右折する車両が滞留しがちで、朝夕などは数珠つなぎの渋滞が発生しています。

問題となったのは、主道路と従道路の関係です。令和5年の調査によれば、現在、主道路として運用されている、白井市役所から国道464号方向へ抜ける白井市道は、12時間あたりの交通量が約3,500台。一方、白井市役所方向から印西市方向へと抜ける現在の従道路は約5,000台とより多く、両者の交通量は主従関係が逆転していたのです。



くわえて、同交差点に信号機設置を進めたいものの、印西市側から来た際の真正面にはフェンスが立ちはだかっており、設置するための十分なスペースを確保することができない状況。そこで、道路を管理する県土木事務所は、主道路と従道路を変更し、同交差点の渋滞解消を図ることとなったのです。

## ●ポストコーン設置に住民反対、県は警察と再協議



さて、住民が交差点改良を反対する理由となったのが、交差点西側（白井市役所寄り）に設置されるポストコーンです。交差点改良にあたり、警察側は「交差点に近接しているため、既存のわき道（図の赤色部分）に出入りする車両が、車線（中央線）をまたいで右折するのは危険」として、ポストコーンの設置を要請。一方、近隣住民からは日々の生活や農生産活動にも大きな支障が出るとして、「到底受け入れられない」との声が上がっており、県と警察との再協議が行われる事態となっているのです。

今回の説明会で工事の可否を判断するのは難しいところ。県は地域の声を丁寧に拾い上げた上で、より良い渋滞、安全対策の実現を期待します。

